（イオン交換膜製塩法）
　昭和４７年以降、従来の水分を蒸発・除去する方法から、海水中の塩分を集めるイオン交換膜製塩法が導入され、全面的にこの方法に切り替えられた。この方法は電気の力を利用して海水中の塩分を集める方法である。

（現在の塩事業）
　１９０５年に施行されて以来９２年間続いた塩専売法が廃止され、新たに塩事業法が施行された。現在は塩製造者が増え、様々な方法で塩づくりが行われている。

参照：「瀬戸内海の文化と環境」
　　公益財団法人塩事業センター（写真提供）

３．瀬戸内海の主な塩の産地

（香川県）
　降雨量の少ない同県では古くから製塩が盛んであり、弥生時代中期には土器製塩の技術が成立し、備讃瀬戸地域における塩づくりの中心となった。島嶼部や沿岸部の遺跡からは海水を煮詰めて塩を作る際に使ったと思われる製塩土器が多数出土している。
　また、17 世紀頃からの瀬戸内地域での塩田開発によって、江戸時代には讃岐、伊予、備前、備後、備中など瀬戸内十州塩田での塩の生産量は全国の 80%を占め、砂糖・綿とともに「讃岐三白」と呼ばれていた。現在も製塩に関する施設は多い。

（徳島県）
　鳴門地域における製塩の歴史は古く、5～6 世紀頃の製塩遺跡が発掘されている。
近世では、慶長４年（1599 年）に藩主蜂須賀氏が播州荒井村（兵庫県）から技術者を招いて入浜式塩田を開いた。その後、藩の保護奨励により急速に塩田開発が進められ、製塩は江戸から明治、大正と、鳴門の一大産業となる。十州塩の生産地のひとつであり、阿波の塩田でとれる塩は、斉田塩（さいたじお）として全国に名声を博した。
　製塩業の文化遺産として、「鳴門の製塩用具」が国の重要有形民俗文化財に指定されている。

（愛媛県）
　降雨量の少ない同県では古くから製塩が盛んであった。弥生時代後期から奈良・平安時代にかけての製塩遺跡が発掘され製塩土器が出土しているのを始めとして、中世においては塩の荘園として京都の東寺に塩を貢納していた弓削島荘、近代においては十州塩の一つに数えられ全国に塩を移出していた波止浜塩田などがある。

（大阪府）
　温暖な気候であり穏やかな湾をもつ大阪では、古くから製塩が行われていた。大阪湾岸地域では古墳時代初期の製塩土器や遺構等が見つかっている。水上交通の要地であり、水上交通の発展に伴い近世においては「天下の台所」と呼ばれ、全国各地から米や産物が集まるようになった。塩に関しても生産地というより運び込まれた塩を全国各地に送る集積地・商業地としての性格を強くしていった。

（兵庫県）
　兵庫県は温暖な瀬戸内気候と遠浅の海に恵まれ、古くから塩づくりが行なわれていた。播州荒井浜（高砂市）は、近世の瀬戸内において最も早く文献に現れる塩田のある地である。兵庫県には、「十州塩」の生産地のひとつである播磨があり、ここで取れた塩は大塩や赤穂塩と呼ばれていた。忠臣蔵で有名な、播州赤穂の領主浅野内匠頭が吉良上野介義央に切りかかった「松の廊下事件」の発端は、塩技術をめぐる浅野家と吉良家の確執にあったという説もある。

（岡山県）
　瀬戸内海に面し、「晴れの国」（降水量 1mm 未満の日数が全国第 1 位）である同県は、その名の通り雨が少なく、温暖で製塩に向く気候と地形を持つ県である。製塩は弥生時代中期頃に始まり盛んに行われていた。瀬戸内で最古の製塩土器も出土している。
1800 年代には塩田王と呼ばれた野﨑武左衛門により、大規模な塩田事業が起こり、瀬戸内海沿岸地域の十州塩に名を連ねた。

（広島県）
　広島県では江戸時代、塩分が強く耕作に向かない干拓地であった竹原地区の土壌を利用した製塩業が始まり、播州赤穂から導入した入浜式の製塩技術をもとに発展していった。十州塩の生産地のひとつである。それらの塩は、「竹原塩」と呼ばれ日本中に出荷されるほどの成功を収め、町の繁栄とともに町人文化が栄えた。竹原市歴史民俗資料館では実際に使用されていた製塩用具や資料を見学することができる。

（山口県）
　本州最西端に位置する同県は、古くは大陸文化の窓口として栄え、さまざまな遺跡が残されている。古墳時代から奈良時代にかけての製塩遺跡からは、美濃ヶ浜式土器と呼ばれる特徴的な製塩土器が出土している。近代にかけては、長門、周防において入浜式製塩が発展し、「十州塩」の生産地のひとつとなった。十州塩業組合を組織した秋良貞臣や、昭和年間に塩価の維持を実現させた田中藤六などの活躍が目覚しい。

（大分県）
　大分県の塩田は、瀬戸内海沿岸地域の広大な干潟を干拓造成した入浜式塩田で、同地域の福岡県の塩田と合わせて、その塩田面積は九州全塩田の 3 分の 1 を占めていた。塩田は周防灘の「和田」「高家」「八幡」「和間」「姫島」等の他、「杵築」「大分」「佐伯」等に存在した。この内、別府湾の製塩の歴史は古く、別府湾岸の大分郡 笠和郷 (大分市)では平安時代末か

ら 由原(ゆすはら)八幡宮に供えるための塩浜が開発されていた。のちに府内藩領となる萩原村、幕府領原村 (大分市)が江戸初期からの塩浜として知られている。

また姫島では、慶長 5 年(16110 年)から元和 8 年（1622 年）に約 9 町 8 反の塩浜が開発され、島の半数（81 軒）で製塩にたずさわるようになった。

参照： 公益財団法人塩事業センターHP

府 県 別 塩 生 産 高

区 分	1892年 （明治25年）	1902年 （明治35年）	1912年 （明治45年 大正元年）	1922年 （大正11年）	1932年 （昭和7年）	1952年 （昭和27年）	1962年 （昭和37年）	1971年 （昭和46年）
単位	石	→	斤	→	kg	→	→	→
大阪	----	----	84,170	116,000	645,600	----	----	----
兵庫	673,504	854,068	140,954,889	157,031,350	85,931,612	66,785,667	146,374,187	142,668,218
岡山	509,188	448,055	97,634,583	111,270,687	51,127,076	45,361,610	158,643,564	215,710,056
広島	761,466	864,071	99,353,302	109,525,385	48,472,801	37,444,036	31,315,584	8,952,382
山口	994,150	835,191	174,056,764	182,449,686	84,693,233	52,242,228	10,954,080	8,793,390
徳島	411,456	449,578	94,873,940	95,801,184	48,230,508	42,628,191	76,061,180	114,666,465
香川	838,459	1,052,851	265,970,816	280,558,229	177,237,925	148,401,485	272,162,024	214,725,333
愛媛	386,598	311,919	62,948,499	63,266,443	35,859,151	29,511,976	19,710,000	13,234,171
大分	143,328	171,558	19,185,902	27,993,246	12,194,901	9,043,451	----	----
大阪から大分までの計	4,718,149	4,987,291	955,062,865	1,028,012,210	544,392,807	431,418,644	715,220,619	718,750,015
全国計	5,654,492	6,120,949	1,033,445,264	1,108,492,900	572,628,550	462,797,232	878,716,109	871,092,884

出典： 農商務統計表 第8～22次(農商務省編:慶応書房刊)
塩専売事業年報(大蔵省主税局編)、塩専売統計表(専売局編)
専売統計年報(専売局編、日本専売公社編)
塩業整備報告第2巻（日本専売公社 1966年刊）
注： 1942年(昭和17年)はデータなし